



優秀賞



長崎漁港防災緑地

パシフィックコンサルタンツ株式会社

西上律治・上出竜司・高橋元幸・大宅克幸・合馬幹人・
太田和彦・野里栄照・松田如水・門間俊之・角方謙一・
今林豊貴・姫野洋祐（元社員）

株式会社ワークヴィジョンズ

西村 浩・田村柚香里・伊藤綾子・西村 渉（元所員）・
森田悠紀（元所員）

コヤマケンタロウデザイン事務所

小山憲太郎

新長崎県庁舎や新長崎県警本部棟とともに計画されたこの長崎漁港防災緑地では、以下の方針のもとに計画から設計、さらに施工監理までを担当した。

1) 行政機能の中核と連携した防災機能が発揮できること

2) 図①②にあるさまざまな特徴ある立地を活かし、「ハレとケ」の利用と発災時への場面転換が容易にできること

3) 「世界新三大夜景」である長崎の夜景に貢献すること

《検討体制とプロセス》 専門化集団でボーダーを越えた検討

本防災緑地では、プロジェクトマネージャー、トータルデザイン、ランドスケープ、構造、港湾、防災、建築、照明の専門家からなる計画・設計チームを編成した。また、隣接する新県庁舎や県警本部棟、駐車場棟などのプロジェクトと「アーバンデザイン会議」の場で用地境界を越えた検討・調整を、計画段階から設計段階まで継続して行い、この地区一帯の連続性を確保した。

《デザインコンセプト》 港の軸と山の軸の設定と視覚化

図①②にあるように、長崎港の入り口とを結ぶ「港の軸」と、

作品概要

作品名—— 長崎漁港防災緑地

所在地—— 長崎県長崎市尾上町3-1

発注—— 長崎県

設計—— パシフィックコンサルタンツ株式会社

設計協力—— 株式会社ワークヴィジョンズ、コヤマケンタロウデザイン事務所
監理—— 《施工管理》長崎県、《重点監理》パシフィックコンサルタンツ、ワークヴィジョンズ、コヤマケンタロウデザイン事務所

施工—— 《基盤》武藤・西海 JV、《電気、照明》タカラ電設／山下電工社、
《舗装》武藤・西海 JV／田浦組／黒瀬建設／星野組／
長崎西部建設／西海建設

《植栽》八江グリーンポート／広輝緑化、
《施設》武藤・西海 JV、《トイレ》西海建設

設計期間—— 2013年3月～2016年3月

施工期間—— 2016年10月～2018年3月

規模—— 約2.2ha（緑地1.4ha+岸壁0.5ha+憩いの広い場0.3ha）

主要施設—— 緑地、岸壁、憩いの広場、トイレ

作品評

本作品は、長崎港の最奥部にあった魚市場を移設して、その跡地を利用して長崎県の県庁舎・県警本部等の新設とともに大規模な防災緑地として計画されたもので、多くの関係者からなる設計チームを編成して進められた成果である。

応募者は、「山の軸」と「港の軸」というデザインコンセプトを用いて、関係する各施設をまとめ、屋上緑化を含めた緑の空間で一体となった芝生広場を完成させた、地場産の石材や夜間照明、そして植栽計画で長崎という地域性と必要とされる機能性・快適性・利便性などを演出している。駅前、そして県庁前という立地から、日常的な利用のみならず大規模なイベント開催も見据えた計画であり、防災広場としての機能も備えている。港湾を目前にした緑地というスケール感と新たな施設との調和、また細部まで検討されたディテール等も高く評価された。



①港の軸と山の軸 ②新長崎県庁舎と新長崎県警本部棟と海に挟まれた立地 ③漁港時代の舗石を再利用した大階段 ④県産石材の阿翁石に、伝統行事の「ハタ」の意匠を刻んだアクセント ⑤夜景と昼景の両立を目指した照明計画 ⑥山の軸を可視化させた展望デッキ ⑦市民とともに取り組んだ「芝はり」イベント

長崎を象徴する稲佐山と風頭山を結ぶ「山の軸」を設定し、展望台や夜景での演出照明で視覚化した。（図⑤⑥）

《造成・植栽》 視線の抜けを確保した「長崎らしい」広場

海から建物に向かってゆるやかにのぼる丘状のランドフォームとし、高い地下水位や潮風などの環境圧を緩和させつつ、海への眺望も図れるようにした。樹種の選定では、県庁舎前の県民の広場として、県内21市町の木を配置するとともに、防災緑地として果実のなる樹種を選定した。また、視線の抜けを確保するよう枝下高が高い規格とし、工事段階では圍場へも足を運び使用する樹木の選定も行った。植栽配置については、緑地内からだけではなく、新県庁のパブリックスペースからの海への眺望視線が抜けるよう配慮した配置計画とした。

《照明》 夜景に貢献し、海への眺望を阻害しない照明

図⑤に示すように、芝生広場には照明柱を建てず県庁舎からの投光照明を用い、海への眺望性を高めるなどの工夫を行うとともに、建築側の照明の色温度の調整を行うなどして夜景への配慮を行った。

《素材・県民参加など》 長崎の石文化の継承とイベント

現場から発生した旧漁港時代の舗石を大階段（図③）などで再利用するとともに、長崎県産である諫早石（ベンチ）、戸ノ隅石（石積み）、阿翁石（舗装アクセント：図④）を利用し、長崎の石文化を表現した。

また、地域住民による芝張りイベントを整備中に開催（図⑦）し、供用後は、「岸壁での朝市」や「緑地の芝生広場での水遊び」など様々なイベントを開催している。